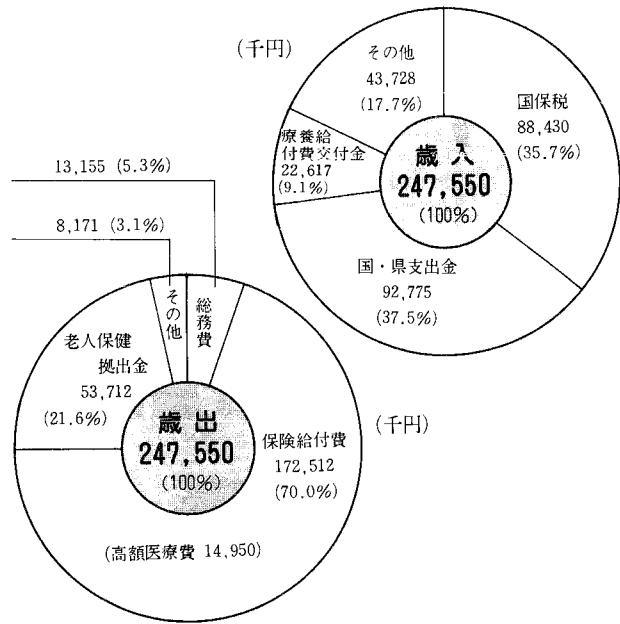


国民健康保険特別会計は、予算総額二億四千七百五十五万円で、前年対比三千八百八十八万円、一四・二％の増額となりました。

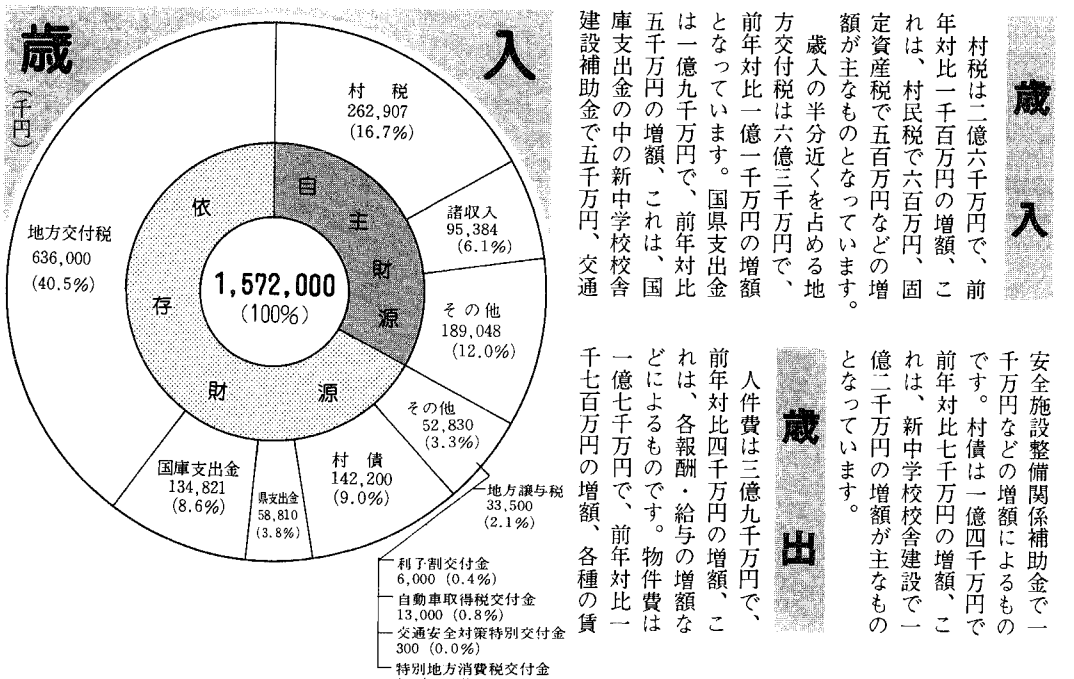
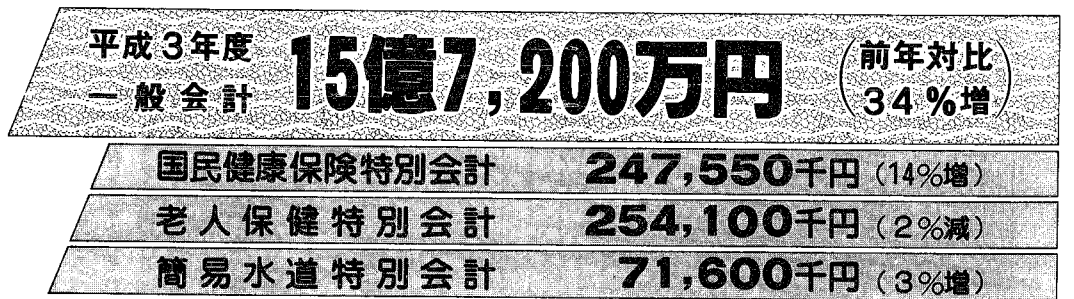
国民医療費は年々増加する傾向にあり、平成二年度の一人当たり医療費支出も前年対比二〇％程度の伸びが見込ま



国民健康保険特別会計
総額 二四、七五五万円

れるところから、平成三年度も同程度の伸びがあるものとして医療費支出額を推計しています。

また、老人医療費に対する国民健康保険負担分(拠出金)も医療費支出の増加に伴って大幅な増加が見込まれています。



村税は二億六千万円で、前年対比一千百万円の増額、これは、村民税で六百万円、固定資産税で五百万円などの増額が主なものとなっています。

歳入の半分近くを占める地方交付税は六億三千万円で、前年対比一億一千万円の増額となっています。国県支出金は一億九千万円で、前年対比五千万円の増額、これは、国庫支出金の中の新中学校校舎建設補助金で五千万円、交通

安全施設整備関係補助金で一千万円などの増額によるものです。村債は一億四千万円で前年対比七千万円の増額、これは、新中学校校舎建設で一億二千万円の増額が主なものとなっています。

人件費は三億九千万円で、前年対比四千万円の増額、これは、各報酬・給与の増額などによるものです。物件費は一億七千万円で、前年対比一千七百万円の増額、各種の賃

金・旅費・需用費などの増額によるものです。維持補修費、扶助費・補修費についてもそれぞれ各増額となっていますが、昨年の消費的経費の占める率からみると一〇％近く率は下がっています。

投資的経費については六億一千万円で、前年対比三億円の増額、これは、新中学校校舎建設で三億八千万円、村道一号线歩道新設で二千二百万円、農村総合整備モデル事業費で九千八百万円、村単独事業工事で三千二百万円、小学

校南側校舎外壁改修工事で一千万円などによるものが主なものです。

公債費は九千九百万円で、前年対比八百萬円の増額、これは、利子で七百万円の増額が主なものとなっています。

総合的にみても、投資的経費は前年二六％、今年三九％と大きくされています。それだけ、新中学校校舎建設がいかに大きなプロジェクトかがうかがえます。※各予算については、一部十万円以下を省略して説明しています。

加入者数も年々減少している、この増加分を保険税として負担いただくことになると大幅な負担増となることから、基金二千九百万円を取り崩し、加入者のみなさんの負担増を極力抑えるようにしています。

歳入では、保険税八千八百万円、(前年対比四百萬円の減額)国庫支出金は九千二百万円(前年対比一千五百万円の増額)療養給付費交付金は二千二百万円(前年対比五百万円の増額)繰入金は三千三百万円(前年対比一千九百万円の増額)繰越金は一千万円(前年同額)その他二百万円となっています。

歳出では、保険給付費一億七千二百万円、(前年対比二千三百萬円の増額)老人保健拠出金は五千三百万円(前年対比六百万円の増額)総務費は一千三百万円(前年対比百万円の増額)保健施設費は二百万円(前年同額)その他六百万円などとなっています。

老人保健特別会計
総額 二五、四一〇万円

老人保健特別会計は、予算総額二億五千四百四十万円で、前年対比三百萬円、一・五％の減額となりました。

歳入では、支払基金交付金一億七千七百万円、(前年対比二百萬円の減額)国庫支出金は五千萬円(前年対比八十万円の減額)県支出金は一千二百万円(前年対比二十萬円の減額)繰入金は一千二百万円(前年対比三十萬円の減額)などです。

歳出では、医療諸費二億五千三百萬円(前年対比三百萬円の減額)が主なもので、その他総務費三十萬円(前年対比十萬円の減額)となっています。

この予算は、ほぼ経常的な運営費で構成されています。

歳入では、水道使用料が六千二百万円(前年対比百万円の増額)となっているほかは、分担金及び負担金・繰越金・

簡易水道特別会計は、予算総額七、一六〇万円

簡易水道特別会計は、予算総額七千六十万円で、前年対比九十万円の増額となっています。

この予算は、ほぼ経常的な運営費で構成されています。

歳入では、水道使用料が六千二百万円(前年対比百万円の増額)となっているほかは、分担金及び負担金・繰越金・

簡易水道は、恒常的な給水量不足から脱却するため暫定豊水水利権四百二十九立方メートルの申請を行ってきましたが、この平成三年度で許可の見通しとなりました。このため、今年度から給水施設改善のための第三次拡張計画を実施することになります。

詳しい内容については、計画が決まり次第お知らせします。

工事収入などを八百万円程度見込んで前年同額となっています。

歳入では、総務費が一千八百万円(前年対比三百萬円の増額)施設管理費は水利権の申請調査委託が減額となったため、三千二百万円(前年対比二百萬円の減額)となっています。

一方、公債費は二千万円(前年対比百万円の増額)となりましたが、これは、第二次拡張工事時に借り入れた起債、つまり借入金の元金償還が始まったための増額となっています。また、予備費は五十万円(前年同額)となっています。